学校教育委員会報告

第10回　学校交流会を開催して

楢原　弘之*
Hiroyuki Narahara

河田　直樹**
Naoki Kawada

2025年9月6日（土）13時～17時にかけて，学校教育委員会行事として，10回目となる完全オンライン形式での学校交流会が，九州工業大学をホスト校として開催された。

参加者総数は，23名（内訳：教員等学校関係者7校より7名，企業関係者　4社1団体より5名，学生　2校より11名）であった。ここ数回の参加者数と大きな差はなく，学生の参加が安定して得られているのは良い傾向と思う。ただ，学校の数が増えていないので，会員の先生方には，指導学生にまずは聴講だけでも参加を促してもらえれば幸いである。

今回の交流会では，まず始めに2025年品質工学研究発表大会　品質工学会長賞を受賞した各学生諸君に受賞のコメントをもらう時間を設けた。次に学生賞受賞者（今回はその指導教員）の研究発表，最後に卒業研究や大学院の研究について中間発表（研究計画としての報告を含む）のセッションを実施した。

まず，会長賞受賞者3校4研究室7名の受賞について1人ずつコメントしてもらった。

「受賞するとは思っていなかったので驚いた」「自分の研究発表を評価してもらったことで自信になった」「今後の研究の励みになった」「品質工学に関する研究室に所属していてよかった」などのさまざまな視点からのコメントがあった。

次に，学生賞受賞記念発表が行われた。発表の前に田村審査表彰部会長からの受賞論文の概要説明と授賞理由等の説明があった。さらに参加学生の研究の参考となる審査部会長本人からの技術者目線の以下のコメントがあった。

「システムは全体の構成と部分的な構成をシームレスにつなぐ必要がある。鳥の目（マクロ視点），虫の目（ミクロ視点）の両方を備えた感性が必要になる。まだ課題はあるが，今後の発展に期待している。」

発表は，受賞者が既に卒業していて就職先の研修の都合で参加できなかったため，今回は指導教員で行われた。

研究発表セッションは，夏の学校交流会の9月の初旬の時点ではまだ研究が本格的に進んでいない状況も多く見られることから，研究計画の発表と，大学院進学予定の4年生や大学院2年目の学生による中間報告に分けたプログラムとしている。今回，研究計画で4件，中間報告で3件が発表された。

今回発表された研究テーマとしては，機械工学分野が中心であったが，内容としてはスマートファクトリー，鉄道，スポーツトレーニング，船舶製造技術，樹脂成形技術，ソフトアクチュエータ，IoTなど多岐に渡っており，回を重ねるごとにテーマに広がりを見せていた。

全体のプログラムは以下の通りである。

＜交流会プログラム＞

1．開会の挨拶
学校教育委員会　委員長
九州工業大学　楢原弘之

2．2025年度品質工学研究発表大会　品質工学会長賞　受賞発表者からの一言
司会　埼玉工業大学　河田 直樹
発表No.7：佐藤凛太郎（九州工業大学）

* 九州工業大学
** 埼玉工業大学